



高分解能 SAR 画像による 2008 年岩手・宮城内陸地震での 斜面災害地域の抽出

翠川三郎¹⁾、三浦弘之²⁾

1) 正会員 東京工業大学 人間環境システム専攻、教授 工博

e-mail : smidorik@enveng.titech.ac.jp

2) 正会員 東京工業大学人間環境システム専攻、助教 博士(工学)

e-mail : hmiura@enveng.titech.ac.jp

要 約

SAR(合成開口レーダー)画像は天候によらず、また昼夜を問わず画像が得られることから、即時的に被害状況を把握する手段として有望と考えられる。本研究では、2008年岩手・宮城内陸地震の直後に得られた高分解能SAR画像を用いて、そのテクスチャー解析から、斜面災害地域の抽出を試みた。異なるサイズのウィンドウに対して画像強度の分散と歪度を計算した。その結果、100×100ピクセル強のウィンドウサイズでの分散の値から斜面災害地域をより精度よく抽出することができることを確認した。

キーワード： 斜面災害、リモートセンシング、高分解能SAR画像、岩手・宮城内陸地震